

古事類苑

歳時部十四

子日

名稱

子日六古ヘ正月子ノ日ニ高ニ登リテ遠ク四方ヲ望ミ以テ陰陽ノ靜氣ヲ得ルニ原ヅクト云フ我國ニテハ其第一ノ子ヲ初子ト云ヒ第二ノ子ヲ弟子ト云フ若シ子日三アル時ハ中子ヲ用キ或ハ二月ニ之ヲ行ヒシコトアレドモ初子ヲ以テ主トスルナリ此日朝廷ニテ宴賜ビ野ニ行幸シ給フコドアリ故ニ臣庶ニ在リテモ亦野外ニ遊ビ小松ヲ引き若菜ヲ摘ムヲ以テ例トス

〔蓮步色葉集福〕子日初學記義首祝松枝男七女二七也十節記正月七

〔書言字考節用集時候〕子日十節錄正月子日登岳遙望四方得陰陽之靜氣除煩惱之術也

〔三中歷歲時〕節日由緒正月子登岳正月子日登岳遙望四方

〔倭訓采前編二十二〕ねのび正月初の子日野邊に出て小松を引て祝とす子の日を根延によせて根ごめにするなるべし小松も又子松の義に取なるべし

〔掌中倭歌年中行事正月〕子日遊○中子日に初子中子弟子のみつあり

〔拾遺和歌集春〕おほきさいの宮に宮内といふ人のわらはなりける時だいざのみかどのおまへにさぶらひけるほどにおまへなる五葉に鶯のなきければ正月はつねのひつかうまつりける